



台本＝鈴木 幹二
 演出＝高木 康夫
 装置＝遠藤 正義
 照明＝杵屋 邦寿
 音楽＝
 制作＝梶山麻季子

くずくずい

屑屋でくずくずい

古典落語
『江戸の茶碗』より



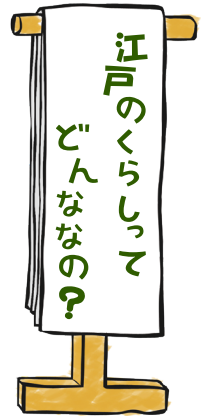
くものがりたり

ある日、屑屋さんが裏長屋で仏像を買った。
 すぐに売れたと喜んでいると、仏像の中から
 出てきたものは……
 上を下への大騒動！
 これぞ「お江戸のものがたり」。



江戸はゴミのない町だった！東京が江戸だったころ、訪れた外国人は、口をそろえて「ゴミが落ちておらず、きれいな町である」といっていたそうです。江戸の町にはどうして「ゴミ」が落ちていなかったのでしょうか？
 江戸の人たちはどんな日常を過ごしていたのでしょうか？
 お芝居をより深く味わっていただけるように、江戸の人たちがどのような暮らしをしていたのか、会場のみなさまと楽しみながら和やかにご紹介いたします。

おしはいの
まにに



●一九三一年（昭和六）年、革新の意気に燃える若い歌舞伎俳優たちが創立。戦後は廃墟の中、青少年劇場運動を起こして全国を廻り、感動と励ましを届けた。二〇二六年には創立九五周年。



前進座